

キョーリン製薬グループの歩み 1960

経営基盤に関わる内容

- 1931 杏林化学研究所設立
- 1940 杏林化学研究所を杏林製薬に改名
杏林薬品を設立



1923 東洋新薬社創業



1947 岡谷工場開設



1967 野木工場開設



1962 杏林化学研究所開設



1977 中央研究所開設

戦略、考え方

創業～1994年

研究開発・生産・販売機能を持つ企業基盤の構築

1995年～2009年 MIC計画

個性的で存在意義のある健康貢献企業

2010年～2022年 HOPE100

社内外が認める健全な健康生活応援企業

2023年～ Vision 110

「人々の健康に貢献したい」という想いのもと、1923年に杏林製薬の前身となる東洋新薬社を創業し、注射薬の製造販売を始めました。1960年代には新薬の研究開発に向けた体制を構築し、現在に至るまで、新薬の研究開発・生産・販売等を通じて人々の健康に貢献してきました。これからも医療ニーズに応える価値の高い新薬を創出し、企業価値向上に努めるとともに、人々の健康に幅広く貢献する企業を目指して成長を続けます。



感染症治療薬への注力

これまで重点領域として感染症治療薬の研究開発を進めてきました。当社が創製した世界初のニューキノロン系抗菌剤「ノルフロキサシン（製品名：バクシダール）」については、1980年に米国メルク社へ導出し、世界約140か国で発売されました。続く「フレロキサシン（同：メガロシン）」「ガチフロキサシン（同：ガチフロ）」を経て、「ラスピク錠・点滴静注キット」を創製し、販売しています。



1965 キョーリンAP2発売
デアメリンS発売



1961 ベハイド発売



1971 コレキサミン発売



1984 バクシダール発売



1981 ムコダイン発売

1980 ノルフロキサシン
メルク社導出

1986 フレロキサシン
F.ホフマン・ラ・ロシュ社導出



1993 メガロシン発売

1996 ガチフロキサシン
BMS社導出



2002 ガチフロ発売



2020 ラスピク錠発売



2021 ラスピク点滴静注キット発売

1986 アブレス発売



1998 ミルトン発売



2007 ウリトス発売

2013 フルティフォーム
発売



2018 ペオーバ発売



2022 リフヌア発売



1996 ペンタサ発売



2012 ルビスタ発売

2016 デザレックス
発売

2019 GeneSoC発売

2024年度
連結売上高(予想)
1,234億円

2024年度
連結営業利益(予想)
65億円



製品の歴史